

房住山（標高 409m）は、何世紀ものあいだ、山岳仏教の修行の拠点であった。現在、この手付かずの森は、慈悲の菩薩である観音菩薩の像が 33 体並んでいるハイキングコースで知られている。房住山という名前は「僧房が住む山」を意味し、かつて僧侶がこの山に住んでいたことに由来している。

この山に関する最も有名な話は、後に東北の蝦夷を平定したことで知られる将軍、坂上田村麻呂（758～811）と戦った長面兄弟の運命について語られたものである。非常に長い顔をしていると言われていた三兄弟がいたが、そのうち二人は、田村麻呂軍と戦って亡くなり、長男は房住山に逃げ込んだ。田村麻呂が逃げた者を見つけられるよう祈ると、山から雷鳴のような声がとどろき渡るのを聞いた。それは兄弟を失ったことを嘆き悲しんでいた、生き残った長男の声であった。長男の叫び声はとても大きく、山寺を破壊し、その下にいた彼をも押しつぶしてしまった。

山のハイキングコースに並ぶ 33 体の観音像は、1860 年に地元の人々によって奉納された。観音様は 33 体の姿を持つと仏教の経典に説かれており、日本には 33 体の観音像を結ぶルートがたくさんある。そのルートに沿って三十三箇所を巡礼することで、特別なご利益があると信じられている。代表的なものは「西国三十三所巡礼」のように、複数の都道府県にまたがる数百キロにも及ぶルートがある。これらのルートは、「巡礼路」と呼ばれ、奈良時代（710～794）に始まったと考えられている。その後、数世紀の間に人気が高まり、より短くてアクセスしやすいルートがつくられ、わずか数時間、もしくは数分で終えることができるものもある。房住山にある 33 体の観音像は、この一例である。

観音像を巡るルートは房住神社への道を示す鳥居の近くから始まる。ハイキングコースは山を登り、尾根に沿って約 5 キロ進むと、寺屋敷跡にある三十三観音像に到着する。ここから山の向こう側に行くには 30 分 0.8 キロのコースと 70 分 2 キロのコースがある。

房住山の地形は比較的緩やかであるが、所々急な箇所もある。適切な服装や靴が望ましい。ハイキングコースの全行程の所要時間は約 4 時間で、そのほとんどは木陰を通る。駐車場は、第二登山口がある房住神社の近くにある。これは尾根を登り、9 体目の観音像の近くで観音像を巡るルートと合流する脇道である。